

一般質問 東山 光徳(新政会)

県道鴨川停車場五色台線拡幅工事の見通しについて

質問 県道鴨川停車場五色台線は、県単独事業として、平成7年頃から拡幅工事を行ってきた。平成25年度までに、総予算9億8000万円をかけた拡幅工事を完了する予定になっているが、法務局の図面と現地とが大きく異なっているため、測量等に相当手間取り、工事が遅れていると聞いている。工事の概要と今後の見通しについて伺う。

答弁…都市建設部長

県道鴨川停車場五色台線は、これまで県単独事業により、高家神社前から約900mの区間が2車線に拡幅整備されており、平成18年度からは、現在改良済みの箇所から1300mの区間が国庫補助事業として採択されています。

県によりますと、国庫補助事業として採択された1300mの区間についても、幅員7mの2車線道路として順次拡幅整備を計画しており、これまで工事に先立ち用地買収を進めてきた結果、平成20年度でほぼ用地買収が完了したことから、平成21年度については、現在改良済みの箇所を引き続き、約1000mの拡幅整備を予定しているとのことです。

前川 昌也(同志会)

本市の農業振興について

質問 本市の農業振興に対する市長の所見を伺う。

答弁…市長

本市では、特産野菜等を中心に特色ある農業を展開していますが、生産者の高齢化等による耕作放棄地の増加や複雑な水利用体系のため、経営規模の拡大が困難になっているなど、幾つかの課題も抱えています。

現在、国においては、農業の構造改革の立ち遅れなど、危機的な状況が深まっていることから、食料・農業・農村基本計画の見直しや食料自給率向上に向けての諸施策を実施しており、さらに、農地利用者の確保と拡大のため、農地の貸し借りの規制を大幅に緩和する農地法改正案が6月17日に可決されました。

本市においては、このような国全体の流れに沿うことを基本としつつ、1つの圃場面積が小さいことや複雑な水事情を勘案し、農業振興を図っていききたいと考えています。

そして、その具体化のため、集落やJA支店単位で開催される各種会合には積極的に参加し、農業者の意見を聞き、JAなどの関係団体と協力しながら、諸施策を決定・実施していききたいと考えています。

市長の目指す体制について(市民参加システム)

質問 本市でのこれまでの広聴活動の状況と、今後、どのような方法で市民参加型のシステムの制度化に取り組んでいくのかを伺う。

答弁…市長

現在、市民からの行政ニーズを把握し、市政運営に反映させるため、さまざまな広聴活動を行ってまいす。主な広聴活動としては、市政モニター制度、市長へのメール、親子市政バスがあります。

今後、市民参加型のシステム「市長サロン」「出前ミーティング」をどのような制度でやっていくのかについては、まだ就任して間もないということもあり、詳細については、現在準備中ですが、老若男女を問わず市内在住、在勤または在学の皆さんを対象に、友人同士や職場の仲間同士などの15〜20人程度のグループに集まっていたいただき、市役所に来ていただける方には市長室等を利用して「市長サロン」として、また、公民館・自治会館等を利用して地域で開催する場合には「出前ミーティング」として市長が出向いて行き、市長と市民が直接話ができる機会を提供することをイメージしているところであります。

市内循環コミュニティバスについて

質問 コミュニティバスの早期実現について、市長はどう考えるか。

また、コミュニティバスに代わるものとして、デマンドタクシーを導入している自治体もあるが、本市でも導入は図れないのか。

答弁…市長

コミュニティバス事業においては、市街地等の交通空白地帯において公共交通サービスを提供するなど、地域の実情や地域住民のニーズに応じた、きめ細かい対応が求められています。本市では現在、市営バスとして1路線を運行しており、また、琴参バスが瀬戸大橋線・王越線などの4路線を運行しています。

コミュニティバス事業については、今後、本市の交通体系全体の状況を見るために、専門的な観点から診断を仰ぐことも視野に入れる中で、調査・研究していききたいと考えています。

また、デマンドタクシーについては、まんのう町において、県内他市町に先駆けての運行が予定されていると聞いています。本市においても、将来的には有効な交通手段であると思いますので、今後、調査・研究していききたいと考えています。